



JST 理事長 記者説明会

平成27年12月3日



科学技術振興機構

JSTの役割

未来創成型イノベーションを先導する！

- イノベーションのナビゲーター
- わが国の科学技術の発展を牽引し、広く世界を先導する組織

「世界の科学技術の潮流を的確にとらえながら、近未来をエビデンスに基づき予測し、人類社会に希望をもたらすイノベーションを生み出していく」責務がある。

成果の最大化に向けた重点3項目

1. 未来社会を創成する革新的イノベーションの実現

- 超スマート社会実現に向けた科学技術の振興（IoT、ビッグデータ、AIなど）に重点化
- 人文社会系研究と理工系研究の共創を促進
- データを駆使して科学技術を社会に生かす基盤の整備とデータのオープン化を推進

2. 研究開発人材の育成によるわが国の科学技術基盤の強化

- 新しい科学技術専門人材（データサイエンティスト、研究マネジメント人材など）の重点的育成
- 文理両領域に俯瞰的視点を持った人材の育成
- 若手、女性、青少年の育成・活躍促進

3. イノベーションの構造化（イノベーション創出エコシステムの構築）

- 人や組織を相互につなぐネットワーク機能を最大限に生かして産学官のオープンなイノベーション創造プラットフォームを構築
- 目利き力を発揮しトップサイエンスを組織・事業を越えてトップイノベーションにつなぐ
- エビデンスに基づく研究開発戦略の立案（シンクタンク機能）

JSTの取り組みで重要なこと

- ◆常にグローバルな視点を忘れない
- ◆社会からの理解・信頼・支持を得ることが活動の大前提

「社会における科学と社会のための科学」を意識して、国民と研究者の間の対話をさらに促進し、研究推進における透明性と説明責任を徹底する。

「Top100 グローバル・イノベーター 2015」 アワード受賞

公的機関で初めてJSTが受賞！

独創的な発明のアイデアを知的財産権によって保護し、事業化を成功させることで、世界のビジネスをリードする企業・機関が選出されるトムソン・ロイター「Top 100 グローバル・イノベーター 2015」アワードをJSTが受賞し、12月3日、トムソン・ロイターから濱口理事長へトロフィーが授与された。本賞において、日本で企業以外が選出されたのはJSTが初めて。

トムソンロイター ホームページ

Top 100 グローバル・イノベーター 2015: 世界のイノベーションをリードする日本のものづくり企業

<http://ip-science.thomsonreuters.jp/press/release/2015/TOP100/>



トロフィーを受けるJST濱口理事長



左から安藤理事、濱口理事長、トムソンロイター棚橋様、堀切様

「JST20周年記念事業 公開対談」のご案内

公開対談：若い世代へ ノーベル賞科学者からの提言 ～科学技術で次の時代を切り開け～(テーマ3：若い世代への提言)

最先端の研究を切り開いてこられた研究者の視点から、日本の科学技術のあり方についての会談。特に、未来の科学技術を担う若手研究者や将来研究者を目指す若者への期待とともに、広く国民の皆様に向けて世界を先導するオリジナリティの高い研究に挑戦することの面白さを発信。

当日来場できない皆様にも広くご覧いただくため、**ニコニコ動画で生中継**
(<http://live.nicovideo.jp/watch/lv239475600>)

日時：平成28年1月9日(土)12:00～14:00

会場：名古屋マリオットアソシアホテル 16階 タワーズボールルーム

対談者：赤崎 勇 氏(名城大学 終身教授／名古屋大学 特別教授・名誉教授)

山中 伸弥 氏(京都大学 iPS細胞研究所 所長)

モデレータ：辻 篤子 氏(科学ジャーナリスト)

定員：700名



2015年度 サイエンスアゴラ概要

ビジョン：つくろう、科学とともにある社会

サイエンスアゴラは、あらゆる人に開かれた 科学と社会をつなぐ広場です。2006年より開始し、今年2015年は第10回。あらゆる人たちが集まり、「科学とともにある社会」をつくる場としていくために、今年 は 下記に挑戦しました。

キーノートセッションを多様な機関と企画(主体を広げる)



サイバー社会の未来
駐日欧州連合代表部

サイエンス・コンテンツイノベーションの可能性
早川書房 × 産学連携推進機構

閉幕で次年度の話題(後述)公表
(通年活動に向けた第一歩)



スポンサーの獲得
(主体を広げる)



登壇者の多国籍化
(文脈を広げる)



参加者数: 9,145人 企画数: 195件 企画提供者数: 169団体
(いずれも3日間累計+サテライトイベント)

2015年11月13日~15日 @東京・お台場地域 主催: 科学技術振興機構

2016年度 サイエンスアゴラ活動計画

サイエンスアゴラを年に1回の“イベント@東京”にしない。

- 2015閉幕で2016年の話題を公表し、既存の関連活動と連携開始
- 地方の大学や企業との連携強化
- 通年活動の総括の場として、年次総会を開催

JSTだけで行動しない。企画段階から広く参加を募る。

- 企画運営委員会の（再）オープン化

【年次総会開催予定】

日程：11月3日（木・祝）、4日（金）、5日（土）、6日（日）

場所：東京・お台場地区他

サイエンスアゴラホームページ：<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>

2016年度 ビジョン・共有課題・話題

「科学とともにある社会」をつくるための活動目標を構造化

■ ビジョン

つくろう、科学とともにある社会

■ 2020年に向けた共有課題案

先端科学が牽引する未来社会への責任ある参加
(科学が社会を変える)

社会価値共創を生み出す開かれた科学
(社会が科学を変える)

リスクとつきあう
(科学と社会の新しい関係性)

あなたが設定

■ 2016年の話題

先端技術が生み出す新しい医・食・暮らし
↑
マイナンバー

教育・文化芸術・スポーツと科学との協働
↑
東京オリンピック

震災復興5年に学ぶこれからの科学の役割
↑
震災から5年

あなたが設定

サイエンスアゴラ2015閉幕セッション (11/15) の議論をふまえて更に検討中

【ご参考】2015年度 これがサイエンスアゴラだ！

11月13日(金) 主要セッション

サイエンス・コンテンツ・イノベーションの可能性

by 早川書房・産連機構

開幕：開幕記念講演(天野浩教授)

開幕特別シンポ(サイバー社会)

by 科学技術振興機構

科学と社会の
今を見つめる

女性参画拡大を科学する

by 米国NSF・科学技術振興機構

先端ICTによるイノベーションチャレンジ

by 科学技術振興機構

11月14日(土) 主要セッション

科学的助言とオープンサイエンス

by 科学技術振興機構

サイバー社会の未来：欧州・日本の見解

by 駐日欧州連合代表部

みんなで2020年をソウゾウしよう！

by アートで科学を刺激する会

日本の技術とソーシャルビジネスで社会課題に挑む

by 九州大学・グラミンコミュニケーションズ

オープンサイエンス革命

by アカデミスト株式会社

11月15日(日) 主要セッション

世界へ！～留学によってCoolに変身～

by 科学技術振興機構他

国際光年特別セッション

by 科学技術振興機構

閉幕：アゴラのこれまで・これから

by 科学技術振興機構

アゴラの過去と
未来を語る

自動走行技術が創る未来社会

by SIP自動走行システム推進委員会

文理融合で、人文社会科学はこんなに変わる！

by 日本学会会議

私たちが考える地球温暖化とエネルギー利用！

by 科学技術振興機構

サイエンスアゴラ2015における受賞企画（他に共催・協賛機関賞もあり）：

JST賞（JSTが決定）

オープンサイエンス革命

（アカデミスト株式会社）

参加者特別賞（参加者の投票により決定）

君たちも化学者～光と電池の実験をしよう！～（日本化学会 普及交流委員会）

物理ゲーム館「種は風にのって」（東京電機大学理工学部「物理ゲーム館」）

第3回科学の甲子園ジュニア全国大会

【科学の甲子園ジュニア】について

中学生が、理科や数学などの競技にチームで取り組むことで、科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会との関連に気付き、科学を学ぶことの意義を実感できる場として2013年度に創設。
(参考HP⇒<http://koushien.jst.go.jp/koushien-Jr/>)

第3回全国大会

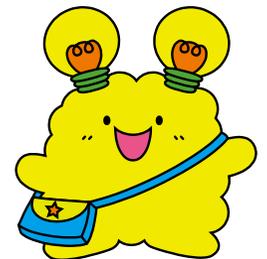
日時 12月4日(金)～6日(日)

場所 BumB(ブンブ) 東京スポーツ文化館(東京都江東区夢の島2-1-3)

- 各都道府県で選出された1チーム6名による47の代表チームが出場します。
- 筆記競技と実技競技に協働して取り組み、チームごとに総合点を競います。
- 代表選考には、総計23,000名を超える生徒のエントリーがありました。

取材対象プログラム

12月4日(金) 16:00～	開会式
12月5日(土) 12:30～	実技競技 (筆記競技は非公開)
12月6日(日) 11:20～	表彰式 ・ 記者会見



アッピン

復興から新しい東北の創生へ(成果発表・展示会)

科学技術の英知・絆の成果in福島

日時:平成27年12月8日(火)12時~

場所:ビッグパレットふくしま(郡山市)

概要:

- ・原発事故からの復興を大きなテーマとし、**放射線計測機器開発の支援による成果28課題**を展示、発表
- ・復興促進プログラムの支援による、福島県を中心とした**被災地企業28社**の研究開発成果を展示、発表
- ・開発企業自身による**ショートプレゼン**を実施(12課題)

JST成果発表・展示会

先端計測分析技術・機器開発プログラム/復興促進プログラム

復興から新しい東北の創生へ

参加費
無料

—科学技術の英知・絆の成果— in福島

科学技術振興機構(JST)は、東日本大震災からの復興向けさまざまな支援プログラムを実施し、被災地の復興を後押ししてきました。今回、原発事故からの復興を大きなテーマとし、JSTが支援した放射線計

測機器開発に関する成果や、福島県内企業を中心に産業復興を目指して新たな製品開発などに取り組んだ成果を、わかりやすく発表、展示します。さらに被災地の大学や研究機関等による取り組みも同時に展示します。



平成27年 **12月8日(火)**

- 成果発表/13:00~16:45
- 成果展示/12:00~18:00

対象 **どなたでもご参加いただけます**
※当日はJST産学共同研究等支援制度への申請相談も受け付けます

会場 **ビッグパレットふくしま 多目的展示ホールB**
(福島県郡山市南二丁目52番地)

お問い合わせ先
国立研究開発法人科学技術振興機構
産学連携推進部先端計測グループ
TEL:03-3512-3529
JST復興促進センター郡山事務所
TEL:024-983-0183
E-mail: fukushima@jst.go.jp (イベント専用)
URL: <http://www.jst.go.jp/fukkou/>



郡山駅から会場までバスをご利用の場合
郡山駅西口「日暮寄り場」から乗車、バス停「ビッグパレット」下車
所要時間:約15分
※(※) 営業日に行き先にご乗車下さい

主催: JST 科学技術振興機構 共催(共催): 一般社団法人東北経済連合会
後援(後援): 文部科学省、復興庁、東北農政局、東北経済産業局、福島県、茨城県、郡山市、国立研究開発法人産学技術総合研究所

「低炭素社会実現のための課題と展望」

低炭素社会戦略センター(LCS)主催シンポジウム

平成 27 年 12 月 24 日 (木) 14:00~17:25

於：伊藤謝恩ホール (東京都文京区本郷7丁目3-1 東京大学構内)

◇開催概要

年末のCOP21(パリ)では、参加する各国の今後の温室効果ガス排出削減目標および枠組の検討が予定されており、わが国における低炭素社会実現のための社会シナリオ・戦略の提案、将来に向けた低炭素社会像の選択肢の提示の重要性が一層高まっています。

本シンポジウムでは、わが国の低炭素社会の実現に向けて、低炭素技術の開発や、その技術を取り入れた経済・社会システムの実用化や事業を進めている専門家の皆様から、低炭素社会実現のための課題や今後の展望等についてご講演いただき、議論を行います。

◇同時開催：ポスター展示

LCSの社会シナリオにつながる技術、経済、社会システムに関する研究の現況・最新の研究成果、JSTの関連事業(先端的低炭素化技術開発(ALCA))、関係研究機関(国立環境研究所・電力中央研究所・静岡ガス、等)、自治体(足立区・荒川区・北海道下川町)の活動について、LCS若手研究員等を中心にポスター発表にてご紹介します。

◇プログラム(敬称略)

開会挨拶：文部科学省

【第1部】

基調講演：小宮山宏(LCSセンター長)

招待講演：石田謙悟(北九州市環境局 環境国際戦略担当理事)

【第2部】

特別講演：宮内義彦(オリックス株式会社 シニア・チェアマン)
パネルディスカッション

モデレータ：山田興一(LCS副センター長)

パネリスト：

石田謙悟(北九州市環境局 環境国際戦略担当理事)

本林稔彦(NEC スマートエネルギービジネスユニット
新事業推進室 エグゼクティブエキスパート)

藤田政之(東京工業大学 教授)

洪儒生(台北駐日経済文化代表処 科学技術部 部長)

関根干津(住友化学株式会社 理事/LCS 戦略推進委員)

松橋隆治(LCS 研究統括)

閉会挨拶：科学技術振興機構(JST)